

engine

エンジン

2015
3

発行：新潟工科大学



今回の

リケジョ

理系女子さん

チャレンジの
毎日☆

キラッ
キラ☆



イルミネーションを見るのが大好き！冬休みにもたくさん見に行きました(〇〇)

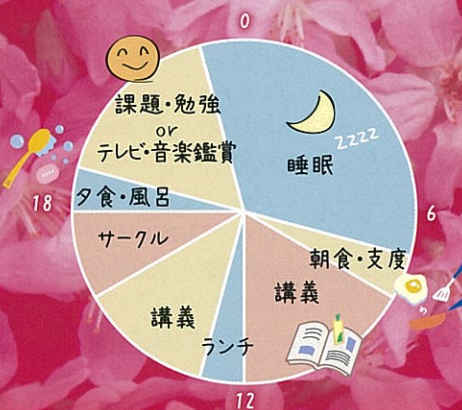


新潟工科大学に入学して友達がたくさんできました★いつもふざけて遊んでいます♪



昨年7月には工科大の学生・教職員が一緒になって「ぎおん相崎まつり(たる仁和賀)」に参加しました！

ある日のスケジュール



毎朝、自分で朝ごはんを作って食べています！目も覚めるし、1日元気に過ごせるからオススメ(〇〇)大学の講義は90分と長いけれど、高校生の時よりも集中力がついたので「あ」という間に感じます！新潟工科大学は少人数制の授業がたくさんあって、分からないことも直接先生に質問できるから、理解が深まっていくのを実感できます★講義の合間やお昼休みは、友達とおしゃべりしながらリラックス(〜)晴れた日に中庭のベンチに座ってわいわい語り合うのがお気に入り！サークルはダンス同好会に所属しています。大好きな曲に合わせて体を動かすのはとても楽しい♪同い年の友達とはもちろん、先輩たちとも仲良くなれて、交友関係が広がりました！これからいろいろなことに挑戦して、たくさんの人と交流を深めていきたいな(〇〇)

profile

建築学科 1年
小林さん

next “RIKEJO”

リケジョ
次回は先輩の理系女子さん！
環境科学科3年
石原 さんが登場します!!!



お楽しみに！

大宮キャラクター
「つくっ太郎」

「工学プロジェクト」
とは?

企業人が大学に出向き、学生が1日社員としてグループワークを行う授業です。企業から与えられた課題をグループで議論・発表し、企業人から講評をもらうなかで、人間力(挑戦力・創造力・コミュニケーション力)を身に付けます。グループワークの前には事前学習があり、アイデア出し、発表などの方法を学びながらコミュニケーションの経験を積んでいきます。また、グループワーク後には、事後学習として振り返りも行います。

一正蒲鉾株式会社(水産加工) / 情報電子工学科 1年 橋本さん

課題 「商品生産ラインの省人化の検討/コストを抑えた省人化」

——どのようにアイデアをまとめていった?

工場の生産ラインで製品の品質を落とさずに省人化するにはどうしたら良いのかというテーマについて、アイデアを1つずつふせんに書き出しながら、議論していきました。企業の方から「ロボットを使わないピタゴラ装置的な発想でお願いしたい」という具体的な要望があり、そこからズレないように話し合うのが大変でした。

——どんなアイデアを発表した?

エアード物を吸いつけることができる手袋を開発し、

製品を取り扱う際にはその手袋をはめることを提案しました。一度にたくさんの商品をつかめるので、作業効率を上げることができます。

——企業の方からの反応は?

アイデア自体はとても高評価をいただきました。ただ、発表の際に制限時間をオーバーしたり、グダグダになってしまうことがあり、プレゼンに対する準備不足を指摘されてしまいました。どんなに良いアイデアでも、説得力を持たせて伝えることができれば、意味の無いものになってしまうことを学びました。



株式会社コロナ(暖房器具) / 機械制御システム工学科 3年 長野さん

課題 「モノづくりの魅力や製造メーカーで働くことの面白さや、やりがい伝えるための入社案内」

——どのようにアイデアをまとめていった?

学生向けの入社案内を作るにあたって、学生目線の意見がほしいとおっしゃっていたので、「自分たちが就職活動をするときにどんな情報が知りたいか?」を軸に話し合いを進めました。構成・内容面と、デザイン面の2つの方向性から考えていきました。

——どんなアイデアを発表した?

構成・内容面では、働く人の1日の流れが業務別で分かるようにすることを提案しました。また、デザイン面では、イラストや写真を多く用いて、日常空

間の中にどんなコロナ製品があるのかをイメージしやすくすることを提案しました。

——企業の方からの反応は?

アイデアは少し無難すぎるのでもう少しひねっても良かったとおっしゃっていました。でも、プレゼンについては、ポイントが絞られていて分かりやすく、にこやかでとても良かったと高く評価していただきました。他分野の学生や企業の方、先生など、年齢や立場の違う人とたくさん話すことで、コミュニケーション能力を高めることができたと感じています。



株式会社北村製作所(産業機械) / 環境科学科 2年 間さん

課題 「未来のトラック物流を考えた時に、必要とされる配送車(トラック)」

——どのようにアイデアをまとめていった?

未来に必要とされる配送車ということで、まず日本の未来がどうなっているのかを考えていきました。その結果、災害、特に地震が増えているのではないかとということになり、その仮説をもとに具体的なアイデアをまとめていきました。

——どんなアイデアを発表した?

2つのアイデアを発表しました。1つは、避難所にプライベートスペースが無いことに注目して、荷台がカプセルホテルのように区切られているトラック。もう

1つは、水不足を解消するために、水がろ過できる装置を備えたトラックを提案しました。

——企業の方からの反応は?

とても面白いと評価していただきました。特に、ろ過機能付きのトラックについては「水を積むというのはよく聞けど、ろ過できるようにしてしまうのは新しい」とおっしゃってください、嬉しかったですね。もののづくりにおいて、利用シーンを明確にすることがいかに大切かを学びました。



社会・企業における

工学プロジェクトでは...

- アイデアの出し方やプレゼンの方法を学ぶことができる!
- コミュニケーションの経験を積むことができる!

学生のアイデアがどんどんカタチに!!

新潟工科大学では、キミのアイデアがカタチになるチャンスがたくさん!



創立20周年記念事業「学生アイデアコンペ」

創立20周年記念事業の一環として、新潟工科大学での生活をより豊かで楽しくするための**アイデア**を学生自らが提案するコンペティションを開催しました。

学内の学生生活環境を改善するための「**自由提案型**」に25作品、福利厚生施設を充実させるための「**課題提案型**」に14作品の提案があり、優れた提案は実際の施設改修や改善に反映していきます。



自由提案型

award

Competition

学生の視点から「学生生活環境の改善」につながる自由な発想でのアイデアを提案

最優秀賞「繋がり」

建築学科1年 斎藤 さん

学生が誰でも利用できる部屋を設け、人が集まり繋がりをつくることで大学をより居心地の良い環境、大学に行きたいと思える環境をつくるための提案。

課題提案型

award

Competition

福利厚生施設において新たなアクティビティやコミュニケーションが活発に行えるアイデアを提案

最優秀賞「交換の森」

建築学科2年 藤井 さん

高低差を利用した4つのエリアを創り、樹木や木製棚を配することで、さまざまな意見交換や情報発信を促進する提案。



第2回高柳町デザイン大賞「ショッピングバッグコンペ」

柏崎市高柳町のイメージ戦略を図るために、高柳町のお土産や特産品を詰め込む袋の**デザイン**を学生から募集しました。

一目見て「高柳」をイメージでき、使ってみて「高柳」を感じることができる、**学生ならではの斬新で魅力的なアイデア**が求められました。

優秀作品は今後製品化され、実際に高柳地域で使用されます。



左から3番目が宗村さん

自由提案型

award

Competition

高柳町に思わず来たくくなるようなきっかけづくりをコンセプトに、高柳町を象徴するかやぶきの家や狐の絵をデザインし地図にすることで、道案内機能もあるバッグを提案

グランプリ賞「伝える袋・伝わる袋」

建築学科1年 宗村 さん

高柳町の魅力は実際に見て感じるのが1番だと思います。そのためには、高柳町に行きたくなるきっかけが必要だと考えました。そこで町外の方に、高柳町がどんなところか分かりやすく伝えるための手段として、地図を利用することにしました。地図を介して高柳町を紹介し、高柳町に行きたくなるきっかけを作ります。高柳町に行きお土産を買い、友達に紙袋の地図を介して高柳町を紹介する。このような連鎖で、高柳町の魅力をどんどん広めていくというのが狙いです。



教えて！ 研究室

今回の研究室は…

情報機器応用研究室

佐藤 栄一 教授【情報電子工学科】

この研究室を一言であらわすと？
土地や資源が豊かを目指します！
さまざまな研究テーマについて、企業や地域の団体などと協力し
励ましや支援を得ながら取り組んでいます。



どんな研究室？

防災システムや医療機器の開発、
自然エネルギーの利活用に取り組んでいます！

パソコンやスマートフォンなどの情報機器を医療や防災、自然エネルギーの普及に役立てる研究を行っています。例えば、TIPEEZ(ティピーズ)という防災システムは、地震や津波による被害の状況を予測したり、住民の避難を支援する機能があります。こうした機能を企業や国の機関と協同で開発しています。また、農業用水路に設置して発電を行う小型の水車や、その発電した電力の利用についても研究を行っています。

Q この研究室を選んだ理由は？

A 中原さん：もともと医療機器に興味があり、研究してみたいと思ったからです。

松崎さん：小さい頃からエネルギーに関心があり、エネルギーに携わる研究をしてみたいと考えたからです。



Q 研究のどんなところに魅力ややりがいを感じる？

A 中原さん：医療機器は最終的に人体に影響するものなので、慎重に研究しなければいけません。大変なところもありますが、やりがいを感じる部分でもあります。

松崎さん：実際にフィールドワークを行い、発電の様子を実感しながら研究できるところが魅力です。

4年 松崎さん

新潟工科大学を目指すキミへ

大学の活動にはほとんど制限がありません。
何事にも自分の可能性を信じて
チャレンジしてみてください。

Q 将来は、どのように研究を
活かしていきたいですか？

A 中原さん：将来どんな業界に就職するにしても、この研究室で学んだ地域貢献の心を忘れずに仕事をしていきたいです。

松崎さん：研究を通して「ユーザーのニーズを的確にとらえ、製品に反映させていく姿勢」を学びました。今後、社会へ出ても、ユーザーのことを第一に考えて働きたいです。



大学院1年 中原さん

Q 研究室はどんな雰囲気ですか？

A 中原さん：研究や就職活動の話はもちろんですが、趣味の話も楽しくできる研究室です。佐藤先生は学生のことをいつも気遣ってくれるとても優しい方です！

松崎さん：明るく風通しの良い研究室です。先輩後輩の壁がなく、気軽に相談しあうことができます！



スマートフォンサイトが 完成しました！

新潟工科大学のスマートフォン
サイトがオープンしました。
スマートフォンから大学情報や
入試情報をより快適にご覧いた
だけます。

スマートフォンで

「<http://www.niit.ac.jp/>」に

アクセスすると

表示されます。



開催
決定！

オープン
キャンパス 2015



『深い』学びから『広い』学びまで
「行って」「見て」「触れて」今までにない
フレキシブルな学びを体験しよう！



6月

7月

8月



日程が決まり次第、
ホームページ・LINEなどでお知らせします。
(秋以降も実施予定)

タイトル「engine」って？

この冊子が、充実したキャンパスライフを送る原動力になることを願って
名付けられました。さらに、「新潟工科大学の学生が、人と社会をよりよくする
原動力のような存在へ成長していけるように」という想いも込められています。



新潟工科大学広報誌「engine」第7号
平成27年3月16日

新潟工科大学

〒945-1195 新潟県柏崎市藤橋1719